

1. 単元名 作品共有会&文化祭準備**2. 本時の概要**

本時は、生徒がこれまで取り組んできた探究学習の成果をグループ内で共有し、互いの知見を広げるとともに、今後の発表に向けた土台を築くことを目的としている。設定の理由は、探究のプロセスにおいて「発信」と「省察」のサイクルを組み込むことが重要だからである。生徒は「主張・理由・根拠」という論理的なピラミッド構造を用いて、自分の探究で最も伝えたいことを整理する。この構成を用いることで、複雑な調査内容を他者に分かりやすく伝える論理的思考力を養うことができる。また、2分間(約600字)という制限を設けて発表準備を行うことで、情報の取捨選択と要約のスキルを習得させる。さらに、LIFEログによる自己省察を通じて自らの学びを客観視させ、10月から始まるスライド制作や増穂祭での発表に向けた意欲を高めるねらいがある。個々の進捗に合わせた個別学習の時間(増穂祭準備)を設けることで、レポートの完成度を高め、探究の質を担保する構成としている。

3. 本時の目標

- **LIFEログの意義と方法の理解:**「LIFEログ」の意義とループリック(レベル3)を理解し、日々の体験から自己の成長や課題を言語化する「成長に繋がる振り返り」を記述できるようになる。
- **論理的構成の習得:**「主張・理由・根拠」の3点セットを意識し、2分間の発表時間に合わせて自分の探究成果を論理的に構成・整理することができる。
- **対話的な学びの実践:**グループ内での発表と質疑応答を通じて、自分の考えを分かりやすく伝えるとともに、他者の視点を取り入れて自らの探究を深めることができる。

4. 本時の準備・使用教材・参考文献

- 教員用提示資料:
 - 授業スライド 第15回
- 使用教材(副教材):
 - 岡本尚也(2024)『ゼロから始める探究活動 課題研究メソッド ZERO』新興出版社啓林館
- 生徒用配布プリント:
 - 「主張・理由・根拠」の構成案ワークシート
- 参考文献:
 - 小泉令三・伊藤衣里子・山田洋平(2021)『高校生のための社会性と情動の学習(SEL-8C)―

- 伊藤羊一著・清水めりいマンガ(2023)『マンガですぐ読める 1分で話せ』SB Creative

5. 本時の展開

時間	学習活動	指導上の留意点・教員の支援
【1時限目】		
10分	LIFEログによるリフレクション ・スクールタクトを起動し、「LIFEログ」の9月の課題を開く。 ・今月の学習内容や自身の成長、気づきについて4～5行を目安に記述する。	・文字の大きさは自動調整されるため、設定を変更せずに記入するよう徹底する。 ・書くことに詰まっている生徒には、これまでの探究活動を振り返るよう個別に声をかける。
25分	発表内容の構成・準備 ・「主張・理由・根拠」の構成を用いて、2分間の発表(約600字)を想定した原稿案を作成する。 ・配布された発表例を参考に、自分の探究で最も伝えたいことを整理する。	・論理的な3点セット(主張・理由・根拠)が揃っているか、巡回して確認する。 ・発表準備シートは手書きで作成させ、思考の整理を優先させる。
15分	グループ内での作品共有会 ・3～4名のグループで、1人2分の持ち時間で発表を行う。 ・発表後、2分間の質疑応答を行い、作品を見せ合いながら意見交換を行う。	・タイムキーパーを意識させ、全員が公平に発表時間を確保できるよう管理する。 ・質問が出にくいグループには、教員が問いかけの例を示すなどして対話を促す。
5分	今後の予定確認 ・10月以降、レポート内容をスライド化し、発表会に向けた活動を行うスケジュールを確認する。	・今回の共有会で得た気づきを、次回のスライド制作に活かすよう動機づけを行う。
【2時限目】		
50分	文化祭に向けた個別準備 ・未完成の生徒はレポートの作成を進める。 ・学校代表に選出された生徒は、COMMONSペース等で発表内容の仕上げを行う。	・個々の進捗状況を把握し、遅れている生徒に対して重点的な個別指導を行う。 ・代表生徒には、より高度なアドバイスをを行い、発表の質を高める支援をする。